**県立下田高等学校**（南伊豆分校）

**フューチャー・ハイスクール**

# 令　和　５　年　度　年　間　報　告

## １　＜成果指標と実績＞

| ＜成果指標と実績＞ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 成果指標 | | 初期値 | Ｒ５年<br>目標値 | Ｒ３年<br>実績（評価） | Ｒ４年<br>実績（評価） | Ｒ５年<br>実績（評価） |
| ①「家庭学習の中心」が「自分で必要と判断した学習」である生徒の割合 | １年 | 33% | 100% | 33%(－) | 38%(E) | 57%(D) |
| | ２年 | 35% | 100% | 35%(－) | 35%(E) | 66%(C) |
| | ３年 | 37% | 100% | 37%(－) | 41%(E) | 80%(C) |
| ②１週間の家庭学習時間の平均 | １年 | 3.2h | 3h | 3.2h(－) | 4.5h(A) | 3.2h(A) |
| | ２年 | 2.6h | 3h | 2.6h(－) | 2.9h(A) | 3.8h(A) |
| | ３年 | 4.0h | 4h | 4.0h(－) | 4.0h(A) | 3.3h(F) |
| ③自ら進んで授業に取り組む生徒の割合 | １年 | 19% | 100% | 19%(－) | 44%(D) | 62%(C) |
| | ２年 | 29% | 100% | 24%(－) | 40%(E) | 53%(D) |
| | ３年 | 20% | 100% | 20%(－) | 41%(D) | 50%(D) |
| ④授業内容等に興味があって学校を選択した生徒の割合 | | 57% | Ｒ６年<br>90% | Ｒ４年<br>59%(E) | Ｒ５年<br>67%(D) | |

## ２　＜年間の取組報告＞

(1) 学習活動と成果の町民への発表会の実施

○３年生、科目「課題研究」等で行っているプロジェクト学習の成果発表会を開催（１月 23 日）、地元の南伊豆中学生１・２年生全員と地域住民に成果を示すことができた。

なお、地元ケーブルテレビにて放映、第２回南伊豆分校魅力化推進協議会にて上映（２月６日）

○３年生、科目「食品製造」の学習成果、パン・焼き菓子等をオープンスクール（11 月 11 日）、農芸祭（１月 20 日）にて配布。南伊豆町役場にて販売（年間３回）

(2) 地域共同学習推進

地域と学ぶ学習活動　20 回

○１年生、地域を知る学習Ⅰ[地域と農業について学ぶ]

地域の農産物直売所や地域農家を訪問し地域や農業に関する課題を学習（４月 21 日）

○１年生、地域を知る学習Ⅱ[町の観光地と観光施設を学ぶ]

地域を知る学習会(南伊豆の魅力と観光資源を学ぶ)　（６月７日）

地域観光スポットの写真の撮り方を学ぶ(南伊豆の魅力と観光資源を学ぶ)　（６月 14 日）

南伊豆町企画課 地方創生室 山口氏の案内等で観光に関する課題を学習、観光スポット写真撮影（６月 28 日）

町の関係者を招いて、生徒が撮影した写真を活用した「地域を知る発表会」の実施（10 月 19 日）

○１年生、地域企業・事業所へ職場見学を実施

グループに分かれて生徒が希望する南伊豆町内の企業・事業所見学を実施（２月６日）

○２年生、お仕事カフェ「地域の仕事を知る」

地域と連携した農業とキャリア形成に関する講演とワークショップの実施（９月１日、11 月７日）

今年度は南伊豆町に加え、下田市とも連携して９月１日には 27 事業所に協力を頂くことができ、生徒は地域の就職や進学だけでなく、暮らし方や生き方についても考えるよい機会となった。

○１年生、地元(下田市)の養蜂経営者よりミツバチの養蜂に関する講義と実習を実施　（11 月１日）

○１年生、地元ＪＡ等と協力し、河津桜のせん定枝の活用に向けた共同作業（11 月 29 日）

○１年生、地域農業を知る講座　賀茂地区青年農業経営士による出前講座（10 月 18 日）

賀茂地区で活躍している青年農業経営士による出前講座を実施。

○３年生、南伊豆町認定こども園との園芸交流の実施（年間９回）

(3) Society5.0にむけた学習の推進
○先端農業研修会　日本大学生物資源科学部スマート農業施設等の生徒見学（12月８日）
○植物工場を整備、農作物の新しい栽培管理計画を立案
○植物工場における定植や収穫の交流体験機会を中学生(南伊豆中学3年生)に提供（６月29日）
○小学生(南中小１・２年生)へ野菜の収穫体験をさせる交流会を計画実施（６月19日）
○特別支援学校生徒との植物工場を活用した交流実施（５月15日、６月５日）
○「大人のための農業実践講座」で連携し、地域の大人たちと植物工場等を活用した授業実施
（４月19日、５月10日、５月31日、６月14日、10月４日、11月１日、11月８日）
(4)「文・武・芸」三道を自ら学ぶ生徒の育成
○全校生徒、芸術鑑賞教室を本校と合同開催（11月16日）
○教職員、校内研修①「ハイパーQU活用による生徒理解」（講師　鈴木増蔵　氏)」（７月13日）
○教職員、校内研修②「授業のユニバーサル化」（講師　静岡大学　山元　薫氏)」実施（10月20日）

## ３　＜特徴的な取組＞

「地域に役立つ人材の育成」を南伊豆町との共通の目標に、地域共同学習推進として「地域と学ぶ学習活動」の一環であるインターンシップの充実に努めている。学校教育から社会教育への繋がりをつくり、学年ごと１年次を「リ・デザイン期」、２年次を「自律期」、３年生を「自立期」と定め学年に応じたコンピテンシーを身につけるように取り組んでいる。賀茂地域唯一の専門高校(農業科)として、2010年からの農業科目「生物活用」の中で継続的に実施されている町立認定こども園との園芸を活用した交流（園芸保育）が注目されている。また花卉として県内初のしずおか農林水産物認定を受けたカーネーション栽培についても継続して取り組み、農業教育の推進と充実につなげている。さらに近年のスマート専門高校推進事業により「複合環境制御装置(水耕栽培装置)」【植物工場】を導入し、新学習指導要領における科目「農業と環境」「総合実習」等の授業展開の中で、新しい農業教育の実践を行っている。

## ４　＜成果と課題＞

(1) 普通科の魅力向上の実現、
地域全体で生徒を育てることができるよう、一人ひとりに対応して義務教育から継続的な教育ができるようにするための連携と協力体制の構築を図ることができた。
(2)「目指す学校像」に向けての進捗
教職員は、新しい教育課程の実施に向けて、南伊豆分校生のコンピテンシーを意識したカリキュラムマネジメントを行った。町内の小中学校教員や本校・定時制教員との合同研修において専門職性を深めた。また、農業教育においては、Society5.0にむけた学習の推進に向けて植物工場等のスマート農業の研修をすすめ、今後の教育活動の推進へとつなげられた。
(3) 生徒の資質・能力の成長
今年度、生徒が地域と深く学ぶことで、改めて自分をリ・デザインし、自分自身の可能性や、仲間との協働の大切さに気づき、自分の住む地域の未来を考える事を目標とした。地域の方々の協力により、地域と学ぶ学習活動では、講師や地域住民ら大人との対話を通して、生徒自身が自信を深めるとともに地域からの期待を感じたりする事ができた。このことにより生徒たちが自主的に地域課題の解決に向けて取り組む姿勢も見えた。冬休み期間中には自主的に多数の生徒が協力し、河津桜のせん定と枝の活用に向けた地域との協働作業に参加するなど、地域の環境や産業に目を向けることができるようになった。
(4) 地域に開かれた教育課程の実現
学校が育てるべき「地域人材像」を南伊豆分校魅力化推進協議会等と協議し続けながら、地域連携したキャリア教育を継続し発展させることが大切である。そのために単に就職・進学の決定だけでなく、社会での生き方を考えることができる機会を設定し、多様なニーズの対応した教育活動の展開ができる事を目標としたい。南伊豆町や下田市の行政機関や民間機関等との連携も進めることでより一層、地域での生き方を考える機会ができた。今後も地域社会と一体となったキャリア教育を展開し、その充実に努めたい。